

櫛伝馬への思い — 郷土の文化や伝統を受け継ごうとする心 —

- 1 学 年 第9学年（後期）
- 2 主題名 地域の文化や伝統を受け継ぐ心 4－（8）
- 3 ねらい 毎年、地域の行事である櫛伝馬披露に向け、地元中学生を指導されている船田正治さんの櫛伝馬に対する思いを知ることにより、郷土の文化や伝統を受け継ごうとする心情を育てる。
- 4 資料名 「櫛伝馬への思い」
- 5 展 開

	学習活動と主な発問	生徒の反応	指導上の留意点
導 入	1 毎年6月、下蒲刈町で行われるビーチフェスタでの地元中学生の櫛伝馬披露の様子を映像や写真で視聴し感想を交流し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ この船は何だろう。 ・ 全員の櫛が揃ってきれいなあ。 ・ 勇ましくてカッコいい。 ・ 疲れそうだなあ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒が感じたことを自由に発表させ、展開に生かしていく。 ○ 櫛伝馬について、簡単に説明する。
展 開	<p>2 資料「櫛伝馬への思い」を読んで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ どうして、地域の人たちは櫛伝馬を再建しようと思ったのでしょうか。 ○ 船ができあがった時、船田さんや周りの人たちは、どんな気持ちだったでしょう。 ◎ なぜ、船田さんは櫛伝馬を、展示としてだけではなく、活用しようと思ったのでしょうか。 <p>3 地域に目を向けて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の方に教えていただいたことにどんなことがあるでしょう。 ○ 地域の方々はどういう思いでみなさんに指導をされているのでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下蒲刈の財産だから。 ・ 先人たちの技術を伝えたいから。 ・ うれしい。 ・ 伝統のある船が再建されてよかった。 ・ 下蒲刈の財産になる。 ・ 早く漕いでみたい。 ・ せっかく再建したのに展示しておくだけではもったいない。 ・ 実際に動かすことが、先人の思いを引き継ぐことになると思った。 ・ 地域の伝統を引き継いで欲しいと思われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 櫛伝馬再建に立ち上がった立ち上がった人々の強い意志を感じ取らせる。 ○ 櫛伝馬を完成させた人々の喜びに共感させる。 ○ 船田さんの櫛伝馬の活用をしようとした思いに気付かせる。 ○ ねらいにせまる意見が出にくい場合のために切り返し発問や補助発問準備しておく。 ○ 自分たちは、生活の様々な場面で伝統文化を伝えられていることに気付かせる。
終 末	4 自分たちは、どんな気持ちで地域の方々から教えていただいているかを考えることでこれまでの自分自身を見つめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の伝統を、自分たちも引き継いでいこう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分をしっかり見つめることにより、地域の文化や伝統を受け継ぐ思いに気付かせる。

6 授業の概要

(1) 主題について

近年、都市化や過疎化が進み、生徒たちの郷土に対する愛着も希薄になりがちな状況である。しかし、郷土は生徒の大切な生活の場でもあり、その生活の中で郷土の伝統文化に触れ、それを体験することを通して、そこに住むことの喜びが生まれ、地域や郷土を大切にする心や態度もはぐくまれる。さらに、長い間にわたって、我々が生活している郷土をつくりあげてきた先人の努力に思いを寄せ、そのことに感謝の心を持ち、これからの人々のためにより発展させていくために、本主題を設定した。

指導にあたっては、船田さんが先人達の思いを受け継ぎ、権伝馬船を展示するのではなく活用について真剣に考えたことに気付かせたい。そのことで先人への尊敬や感謝の気持ちを呼び起こせるようにしたい。

(2) 自作資料活用のポイント

ア 活用する時期

地域の方々と生徒がいっしょに活動する地域の行事が催される時期や、卒業式を間近に控える時期等に扱ふとよい。

イ 中心場面で考えさせたい内容

船田さんが先人の思いから、権伝馬船を展示するのではなく活用について真剣に考えたことに気付かせたい。そのことにより、先人への尊敬や感謝の気持ちを呼び起こせるようにしたい。

(3) 指導過程の工夫

ア 導入の工夫

生徒の権伝馬のイメージを明確にするため、これまでの権伝馬披露の様子映像や写真を利用したい。また、全国に存在する権伝馬について調べ、簡単な説明を加えるのもよい。

イ 繰り返し、補助発問の工夫

ねらいにせまる意見が出にくい場合、次の様な繰り返し発問や補助発問を工夫したい。

「船田さんは、本当にただうれいだけなのでしょう。」

「船田さんの心配とは、何でしょうか。」

「『何か大切なものが欠けているような気がする。』と言った大切なものとは何でしょうか。」

「『これだ。』と思った船田さんは、どんな気持ちだったのでしょうか。」

「なぜ、船田さんたちは権伝馬で宮島へ行こうと思ったのでしょうか。」

ウ 資料提示の工夫

資料最後の船田正治さんの言葉は、空欄にしておき、終末に教師が範読して提示する等の工夫も考えられる。

エ 展開後段の工夫

展開後段では、地域の方々に、教えていただいた時の思いや地域の行事に参加した時の思い等、地域の方々との交流の体験を展開に生かし、先人への尊敬の念や感謝の気持ちをもたせたい。

(4) 参考資料

三之瀬文化郷土芸能保存会編「権伝馬船の歴史と巖島神社参拝記録」

